



---

# THE 38 FLOWER REMEDIES

---

38 種のバッチフラワーレメディの教科書（基礎編）



ALCHEMY HEALING HOLISTIC THERAPIES

魂のアルケミスト養成講座資料

はじめに

## ● フラワーレメディーとは？

フラワーレメディーは自然の草花のエネルギーを水に転写したもの。

その草花の波動が記憶された水をアルコールなどで保存している液体がフラワーレメディー、あるいはフラワーエッセンスと呼ばれています。

このフラワーレメディーによる自然療法を考案したのが、イギリス人医師のエドワード・バッチ博士です。

バッチ博士は細菌学者でもあり予防接種などの研究をしたのですが、ホメオパシーに出会いホメオパシー的な予防方法（ノゾーズ）を考え出した人でもあります。

一生をかけて究極の治療法を探し求めた結果、野生の草花に癒しの力を見つけて病気の治療に使い始めたのでした。

バッチ博士は心の在り方が健康の維持にも病気からの回復に重要な役割を果たしていると信じていました。つまり、考え方が変われば行動が変わり、病気の原因となっていた生活習慣も変わり、やがては症状が改善され病気が治るというわけです。

日本でも病は気からといわれるように、病気のもととなる気（エネルギー）を自然からのエネルギーを使って気をその人らしい気に戻すことで、病の気が居場所を無くして消えていくのです。

今日では、これらの安全で、穏やかに働くレメディーは、個人の使用者だけでなく、医療や代替療法の治療家や、心理療法家、カウンセラー、歯科医師、獣医師やヒーラーまで世界中で多くの人々の間で使われています。

このフラワーレメディーの目的は、身体の治癒力を妨害しているであろうとされる、憂うつ、不安、トラウマといった感情的な問題を改善することによって、患者の病気と戦う力をサポートすることです。

また予防の目的にも使うことができ、一時的に不安や心配、ストレスがかかる時に、特に思い当たる理由や病院で診断されてないけどいつも疲れていて、体調が悪いといった人の助けになります。

フラワーレメディーは、他の医療、治療を受けながらも使うことができ、処方薬とケンカするということもありません。

これらのレメディーは、安全で、不快な副作用もなく、また依存性也没有ありません。

穏やかな効き目で、新生児からお年を召した方まで、全ての年齢層に安全に使っていただくことができます。また、ペットや動物、植物にまで使うことができます。

## ご注意

フラワーレメディーは医療の代わりになるようなものは一切ふくまれておりません。症状がなかなか改善しない場合は、医師に相談されアドバイスを受けるようにお願いいたします。

## ● フラワーレメディーの取り方

バッチフラワーレメディーは4滴を1日4回、朝昼晩と寝る前にコップ一杯の水に入れて飲むか、舌の下に直接垂らしてお取りください。緊急時は症状が改善するまで15-20分おきに取ります。

## ● フラワーレメディーを使う

バッチ博士は38種のフラワーレメディーを本当の自分でいられなくなってしまう根底にある葛藤/感情の状態として7つに分類しています。

- 1 **Fear** : 不安、恐怖に駆られている状態
- 2 **Uncertainty** : 内面の不安定さ、不確かさがある状態
- 3 **Insufficient interest in present circumstances** : 現実に関心がない状態
- 4 **Oversensitivity** : 人や周囲に敏感すぎている状態
- 5 **Despondency or despair** : 失望、絶望している状態
- 6 **Over-care for the welfare of others** : 他人の事に関心を持ちすぎている状態
- 7 **Loneliness** : 淋しさと孤独を感じている状態

これらの感情的な症状に合わせて最も適切なフラワーレメディーをとることで、早くて数分後（こじれたケースで長くて1年）で効果が感じられます。

痛み、風邪といった体の症状であっても、その人の性格、感情表出にあったフラワーレメディーを選びます。

例；短気で自分で何でもやらないと気が済まないタイプの人が、皮膚の湿疹がなかなか治らないことにイライラしていたら…

- インパチエンス（短気で待てない人のレメディー）を一日4回4滴ずつ取ってもらう

- 外用薬としてエッセンス入りの水で湿布、クリームに混ぜて湿疹に塗るなどしてもよい。

# アグリモニー

和名；セイヨウキンミズヒキ

野原や湿地や低木の間に育つ。

30-60 センチの高さまで成長。

開花は6月から8月。

英名；Agrimony

学名；*Agrimonia eupatoria*



キーワード； 笑顔に隠された苦悩

## アグリモニーが必要な人

明るく快活で何も困ったことなどなさそうに見えるが、その仮面の下には、不安、心配でいっぱい、さらには心の中に深刻な苦悩があり、他人に気が付かれないようにするだけでなく、自分の中でもなかったことのように封じ込めようとしている。

痛みや不快な状況にあっても、それを冗談でごまかしたり、自分が怖いと感じたりしていることを表現することはあまりしない。一人でいることを嫌い、とても社交的で、まるで苦悩や苦しみについて逃げるかのように誰かと一緒にいることを求める。人生の暗い側面を見ようとせず、対立やトラブルを避けるために物事の表面だけとかかわり深入りすることは好まない。

頭であれこれ考えてしまい、夜になる落ち着きがなくなることも（ホワイトチェストナットも参照）。

アグリモニータイプの人、不快な状況、苦悩を忘れるために、アルコールに依存したり、薬物を使用したり、あるいは食べることで解消しようとしたりする傾向。

## アグリモニーを取ると見られる変化

真の快活さ、明るさを取り戻す。人間関係が良好になり、自分の気持ちを臆することなく話せるようになり会話上手に。人生の中で起きる好ましくないような事でも受け入れられるようになる。もともとあった快活さが、本当の意味での自己受容とところの中からの喜びから湧き起こるようになる。

# アスペン

和名；ヨーロッパヤマナラシ

イギリスならどこでも見られる細い木。3月から4月の新緑の前に垂れ下がる雄花と小ぶりの丸い雌花をつける

英名；Aspen

学名；*Populus tremula*



キーワード；説明のつかない漠然とした不安や恐怖

## アスペンが必要とされる人

これといった理由もなく、突然に恐怖や不安に襲われてしまう、そのためいつも緊張していて心配性なタイプの性格であることが多い。アスペンが頻繁に使われるのが、悪夢からの恐怖で起きてしまう、たとえその夢を覚えていなくても怖い思いがして起きてしまうとき。アスペンは子供の悪夢や夜に暗がりや怖くて寝られないなどといった恐怖に助けになる（ロックローズも参照）。

アスペンの恐怖は昼夜関係なく、説明のできない不安、予感のようなものが一人にいるとき、または誰か友達など一緒にいるときに起きたりして、実際に身震いや震えまで起きてしまうこともある。

## アスペンをとることで見られる変化

こころの内側の平和、安全安心と恐怖からの解放。不安や懸念は冒険や新しい体験をしたい！（たとえ困難や危険があっても気にしないで挑戦してみたい）という気持ちに入れ替わる。

# ビーチ

和名；ヨーロッパブナ

堂々とした風格の木で、高さが30mまで達する。昔は森の母と呼ばれていた。同一の木に雄花と雌花をつける。葉が出てくる4月から5月にかけて花が咲く。



英名；Beech

学名；*Fagus sylvatica*

キーワード；批判的な態度、不寛容さ。

## ビーチを必要とする人

いつも、批評、批判ばかりしている人。他人の欠点、短所、至らないところが我慢できない、許せない。人の良いところを見つけるのが難しいと感じている。強い優越感を感じており、偏見を持つ、傲慢な態度になりがちで、他人の立ち振る舞い、マナー、癖などにすぐにイライラする。自分はいつも正しくほかの人すべてが間違っていると信じ切っている（インパチエンスも参照）

## ビーチを取ると見られる変化

忍耐強くなる、我慢できるようになる。思いやりの気持ちが出てきて、他の人とのつながりや協調性が出てくる。ビーチタイプの人がポジティブな状態になると、完璧でなくても他人の良いところを見てあげられるようになる。

# セントーリー

和名；セントーリー

道端や荒れた乾いた土壤に、年中見られ 5-35 センチの高さにまっすぐ育つ。枝分かれした茎の先に小さなピンクの花をつける。6月から8月にかけて晴れた日にしか咲かない。



英名；Centaury

学名；*Centarium umbellatum*

キーワード；意志の弱さ、いやといえない、他人に利用されやすい

## セントーリーを必要とする人

Noと言えない人。善意に付け込まれたり、威圧的な態度を人に許したり、いじめられてしまったりする。引っ込み思案で物静かなタイプで、意志が弱く受け身なことが多い。相手が喜んでくれるか不安で、一緒に何かをしようというよりも、相手に尽くすことに徹してしまいがち。このような状態にいることに不満なのだが、他人との対立を避けるため、自分の望むことややりたいことを否定してしまう。「正しいことをすること」に不安があり、他の人の命令や指図にすぐに影響をうけてしまう。他人との関係で疲れ切ってしまい、自己主張することから遠ざかってしまい、元気や気力がなく疲れやすい傾向。

## セントーリーをとると見られる変化

快く、慎重深く他人に尽くすが、自分のニーズを否定することはなくなる。自分の意思を表現、意見を述べられるようになり、集団になじめるようになる。自分の望むことが分かり、他人の意見に振り回されることなく、確信と行動力を持って自分の道を歩めるようになる。



# セラトー

和名；セラトー

ヒマラヤ原産で約60センチほどになる。野生のものではなく庭で栽培されている。1cmほどのブルーの花をつける。



英名；Cerato

学名；*Ceratostigma willmottiana*

キーワード；アドバイスを求める、他人の承認を求める

## セラトーを必要とする人

自分の判断や決断を信じられない人。実は自分のやりたいこと必要なことは分かっているが、たくさんの知恵がありすぎるのか、直感が強すぎるのか他人のアドバイスを求める、他人からの承認をもとめて、時に間違っただけの人のアドバイスを真に受けてしまって自分を信じることができない。具合が悪い時などは、他人が勧めた治療法などをそのまま継続的に受けようとする傾向が見られる。

## セラトーを取ると見られる変化

自分のうちにある考えを信頼してそれに従うことができるようになる。自分を信頼でき決断力が出てきて自分の本当の使命を見つけてそれに向かってまい進できるようになる。

# チェリープラム

和名：ベニバスモモ

3 mから4mに育つ低木。純白の花が葉の出る前の

2月から4月にかけて咲く。

英名：Cherry Plum

学名： *Prunus cerasifera*

キーワード：コントロールを失う恐怖



## チェリープラムを必要とする人

自分の振る舞いや言動に自制心が効かなくなるのではないか、コントロールを失う恐怖を感じている。もしかしたら精神的な限界に達しているのかもしれない。深い落ち込みの状態にあって、正気を失ってしまうのではないかと恐れているのかもしれない。

チェリープラムが必要と思われるときは、感情が大爆発して、暴力的な衝動がでてしまうのではないかと恐れている。実際に友人や家族に対して異常なまでに罵倒し理性を失って、突然に怒りや憤慨をぶつけてしまうことがある。

## チェリープラムを取ると見られる変化

心が落ち着き、理性的に考え行動できるようになる。

もし、チェリープラムの状態が深刻な場合は、専門家への相談をおすすめします。

# チェストナットバッド

和名：セイヨウトチノキの芽

このレメディには光沢のある芽の部分の花と葉を包む 14 枚の芽鱗の樹脂層が使われる。同じ木からホワイトチェストナットのエッセンスが採れる。



英名：Chestnut Bud

学名：Aesculus hippocastanum

キーワード：同じ失敗を何度も繰り返す。

## チェストナットバッドを必要とする人

経験から学ぶことに失敗していることから、人生において進歩、前進をすることができなくなっている。同じ失敗を繰り返してしまう、例えば同じような間違ったパートナーと付き合う、自分には合わない仕事を続けているなど。過去の失敗から学ぶ代わりに、チェストナットバッドの人は過去のことを忘れようとし、将来の決断に一切の学びに基づく基盤がない。

慢性的な症状を繰り返していることが多く、しかし決して何故繰り返し症状が出るのか考えることがないので、根本の原因を治すことに失敗してしまう。

## チェストナットバッドを取ると見られる変化

バッチ博士によると「このレメディは日々の経験の利点を最大限に活用することを助けてくれ、自分自身を見られるように、自分も他の人と同じように間違いをするものであるという見方ができるようになる。自分の間違いや失敗を客観的にみられるようになって、すべての経験から学び、知識や知恵を得て、人生を前進し続けることができるようになる。思考が活発になり他人を観察でき、他人から学べるようになる。

# チコリー

和名；チコリー

90 cmくらいの多年草、砂利のような荒地、道端、野原に育つ。明るいブルーの花が咲き、デリケートで摘むとすぐにしぼんでしまう。

英名；Chicory

学名；*Cichorium intybus*

キーワード；所有欲、干渉し過ぎ、過保護、自己中心的



## チコリーが必要な人

とても所有欲が強く面倒を見ている相手に対して自己中心的な態度でその人を操ろうとする。意志の強い人で、他の人が自分の価値観に合わせることを期待して、時に批判的になったり、干渉したり、口をはさんできたりする。見返りなしに人に何かを与えることが難しいと感じている。一人でいることが嫌いで、いつも注意をひきたがり、義務のように相手に尽くす。よくありがちなのが大人になった子供を自分の支配下に置いておきたい所有欲の強い親などに見られる。強いながらも、自己憐憫に陥り、たやすく気分を害することが多い。中には人の注意をひくために病気を装ったりすることも。例えば娘が家を出ようとしているときに心臓の痛みを訴える親など。

チコリータイプの人はおしゃべりで、主張が強く、議論を吹きかけてくる。

チコリーは子供にも使われ、注意を引きたいがために、立て続けにわけのわからない欲求をしてくる場合に用いられる。

## チコリーを取ると見られる変化

自己中心的でなく、純粋な母性愛を注いで人の世話ができるようになる。見返りを期待することなく人に与えることができるようになり、愛する人が自分の人生を生きることを許せるようになる。満たされた自信に満ちた気持ちになり、自分が愛されているという確信を相手に求めることがなくなる。温厚で親切、他人を思いやり、他人の求めていることに気遣いができるようになる。

# クレマチス

和名；クレマチス

土手や生け垣、茂みや森の中に育つ、木のような外観のつる性植物。12メートルにまで達してロープのようになる。開花の時期は7月から9月にかけて。花はよい香りを放ち、緑がかった白い綿毛がある4枚のがく片に囲まれている。秋には長い糸状の銀色のおしべをつけ、それが白髪のように見えることから老人のひげという別名を持つ。



英名；Clematis

学名；*Clematis vitalba*

キーワード；夢見がち、現実に興味がない状態

## クレマチスを必要とする人

自分の想像の世界に生きていて、現実世界に興味がない。現実に関心することが難しいと感じている。あまり幸せを感じておらず、良かった時代を懐かしむが、それに対して、取り戻そうとか行動を起こすことはない。記憶力があまり良くなく細かいことが覚えられない。

気力があまりなく心ここにあらず状態である。一人でいることを好み、ひきこもることで他人との対立などを避けようとする。とてもロマンティックなタイプでもある。具合が悪いときは、良くなるうという努力はしない。クレマチスは愛する人を亡くして自分も一緒にあちらへ逝きたいと願う人に合う。集中力に欠けるので、事故やケガに遭いやすい。

クレマチスの子供は生まれ持った能力がないのではなく、夢見がちなので集中することが難しい。

## クレマチスを取ると見られる変化

身の回りのことに興味がわき、生き生きとして人生を楽しめるようになる。ひらめきや思い付きにオープンになり自身のもつ創造性を十分に発揮できるようになる、例えば芸術、執筆、デザイン、ファッション、またはヒーリングなど。現実的で地に足がつき、目的意識を持ち、未来は現在によって作られていくのだと理解できる。基盤がしっかりして思考をコントロールできるようになる。



# クラブアップル

和名；リンゴ

高さ 10 メートルくらいまでになり、ハート形の  
花弁は外側が濃いピンクで、内側は白っぽい薄い  
ピンク。五月に花が咲く。



英名；Crab apple

学名；*Malus pumila*

キーワード；自己嫌悪、潔癖症、完璧主義

## クラブアップルを必要とする人

こころとからだをクレンジング、浄化するレメディで、汚いと感じ、自分の容姿に自信がない、自己嫌悪を感じている人に。クラブアップルタイプの方は家の手入れ・美化に熱心であるいは清潔であることや些細なことに必要以上にこだわりがあるかもしれない。

クラブアップルは、不快な体の症状で恥ずかしいと感じている人に使われる、例えば皮膚の問題や分泌物など。トリートメントを受けてもなかなか治らないと非常にがっかりしてしまう。皮膚の問題で悩む人には、外用薬としてレメディを水で薄めてスプレーしてもいいし、布やコットンしみこませて湿布にしても。あるいはお風呂のバスタブに 10 滴入れて入浴するのもいい。

## クラブアップルを取ると見られる変化

自分自身や完璧でない自分を受け入れられるようになる。自分の容姿にもポジティブなイメージを持てるようになり、物事への見方や考え方自分の身の回りの環境にもリラックスしていただけるようになる。

# エルム

和名；オウシュウニレ

森林や低木地帯に育ち、2月から4月にかけて葉が出る前に小さな花が房状に索。

英名；Elm

学名；*Ulmus procera*

キーワード；責任感で押しつぶされそうになる



## エルムが必要な人

自分に課されている仕事に押しつぶされそうになる。通常は難なくこなせる力量も能力もあるのに、一時的に自信を失って意気消沈してしまうときに。エルムタイプの方は良いマネージャーで、責任ある地位についていることが多く、ほかの人の快適な暮らしや健康をお世話する人であることが多い。（お医者さん、先生、セラピスト、業界のトップ）

エルムは普段は実力もあり有能な人が突然に、自分に課せられた仕事の責任を負えないと感じたり、あまりに多くの仕事を抱えすぎてしまって、自分の面倒を見る暇がなくなって、疲れて自信喪失してしまっているときに使われる。一時的に自分の能力に自信が持てなくなって自分が弱く非力に感じてしまうときに。

## エルムを取ると見られる変化

本来の有能な資質が復活して、能率よく仕事ができるようになり自己信頼感が戻ってくる。問題を客観的に全体的に見るようになり、自分の果たせる範囲の責任だけを引き受けて、自分のための時間を取ったりできるようになる。

# ゲンチアナ

和名；ゲンチアナ

乾燥した丘陵の牧草地や崖や砂丘に見られる二年生植物で  
15 cmから 20 cmの高さに育ち花の色は深紅から紫までさまざま  
ある。8月から10月にかけて花を採取する。

英名；Gentian

学名；*Gentiana amarella*

キーワード；落ち込み、意気消沈、悲観的、疑い



## ゲンチアナを必要とする人

疑いと落ち込みに。この状態に陥っている人は物事が間違った方向に行ってしまった  
たり、困難にぶち当たると、すぐに意気消沈してしまい憂うつになってしまう。マ  
スタードのレメディと違って、ゲンチアナの憂うつ状態は、いつも原因が明らか  
なものからくる。ゲンチアナのタイプの人、病からの回復や人生に前進が見られ  
ても、ちょっとした後退するような出来事があるとすぐにやる気をなくしてガッカ  
リしてしまう。ゲンチアンは長期にわたる病で落ち込んでしまっている人や、繰り  
返して起こる症状に悩まされ意気消沈している人に使うとよいかもしれない。

## ゲンチアンを取ると見られる変化

自分が最善を尽くしている時に結果はどうであれ、失敗などないのだという気づき  
が起こる。最善を尽くしたら必ずうまくいくと信じられるようになる。たとえ問題  
があっても克服できると確信が持てる。



# ゴース

和名；ハリエニシダ

石の多い土地、乾いた牧草地に育つ。2月から6月に花を咲かせる。

英名；Gorse

学名；*Ulex europaeus*

キーワード；絶望、あきらめ



## ゴースを必要とする人

深い絶望と落ち込みで何もかもあきらめてしまっている状態に。お先真っ暗と感じていて、希望もすべて失ってしまった状態に。自分の病は生まれつきだから治らないと信じて諦めてしまう。痛みや苦悩などがめを受けているのだと感じ、病気を治そうとすることもない。あらゆる治療法を試して周りの近しい人を安心させようとするかもしれないが、心の底では治らないと思っている。ゴースタイプの人、人生を曇らせているものを押しのけるために太陽の光を必要としているかのように見える。

## ゴースを取ると見られる変化

たとえ体の病気や心の問題があったとしても、治ると信じる心と希望が出てくる。心が明るくなり幸せを感じられるようになり、病を良い経験として学びに変えることができるようになる。症状が軽い場合は、回復の兆しを感じるようになる。

# ヘザー

和名；エリカ

乾燥した土地や荒れ地の開けた荒野に、薄紫から白までさまざまな色の花を7月から9月にかけてつける。

英名；Heather

学名；*Callum vulgaris*

キーワード；自分のことで頭がいっぱい、自己中心的 自分のことばかり話す



## ヘザーを必要とする人

自分のこと、自分の悩みで頭がいっぱいで、他の人との心の通った双方向のコミュニケーションができない。自分の必要としていることばかりを主張するので人を遠ざけてしまう。症状を大げさに話し、小さなことでも大げさに扱う。会話に割って入る、常に話を聞いてくれる人を必要として、話を聞いてもらうために他人を引き留めて離そうとしない。早口になりがちで、特に聞いている人の顔に近くで話をする。一人でいることを嫌うが、しかし他人から気力を奪い、他人の問題に一切興味を示さないので人から避けられてしまう。

## ヘザーを取ると見られる変化

他人を助け、自分のことはひとまず置いておいて、他人の問題に理解を示すことができる心の広い良い聞き手になれる。他人へ感情移入することで、自分の苦悩を良い方向に活使うことができるようになる。

# ホリー

和名；セイヨウヒイラギ

光沢のある葉と真っ赤な実をつける常緑樹。森林や生垣に見られる。かすかな香りを放つ白い花は、5月から6月にかけて開花する。

英名；Holly

学名；*Ilex aquifolium*

キーワード；ねたみ、嫉妬、憎しみ



## ホリーを必要とする人

不機嫌で、頑なな性格、時に残酷で暴力的になったりする。心の内側に苦悩があり、その原因もよくないものだったりする。愛に対してこころを開くことが難しいと感じている。

ホリータイプの人がネガティブになると、憎しみ、妬み、嫉妬が全面に出てくる。安心できないことから無意識にこのようにふるまってしまうのかもしれない。愛を与えることが下手で、仲間に対していつも怒りを感じている。

ホリーは子どもの兄弟間の嫉妬に使うとよいレメディでもある。

## ホリーを取ると見られる変化

おおらかになり、見返りを期待せずに与えることができるようになる。思いやりがあり、愛し愛され、分かち合いの気持ちで所有欲がなく、たとえ自分が問題を抱えていても人に与えることができるようになる。こころの中が調和がとれている感覚があるので、他人の成功も心から喜んであげることができるようになる。

# ハニーサックル

和名；ハニーサックル

香りのあるつる性の植物で、花卉は外側が赤く内側が白く受粉すると黄色に変わる。開花は6月から8月にかけて。



英名；Honeysuckle

学名；*Lonicera caprifolium*

キーワード；過去を懐かしむ、過去を後悔する、ホームシック

## ハニーサックルを必要とする人

過去の記憶に必要以上にこだわり手放せない状態にある時。過去に生きてホームシックやノスタルジックな気持ちに浸っている。後悔をしているのだが、過去を振り返っているばかりで現状を変えることができないでいる。愛する人を亡くしたこと、幸せな思い出に浸る、あるいは不幸な出来事を乗り越えることができていない。肉親に先立たれてしまったことが乗り越えられないまま、いつも過去の話ばかりをしている。

ハニーサックルは肉親を亡くした遺族、リストラされてしまった人、あるいはビジネスに失敗してしまったときに助けになり、特に一人で暮らすお年寄りに。

## ハニーサックルを取ると見られる変化

今に生きられるようになる。過去にとらわれなくなるが、過去を貴重な体験だったと思えるようになり今の生活の学びにすることができる。後悔を手放して、前に進むことができるようになる。また、年齢を重ねることは自然の流れだと受け入れられるようになる。

# ホーンビーム

和名；セイヨウシデ

ビーチに似ているが、より小ぶりで緑が濃い。  
垂れ下がるのは雄花で上に雌花をつける。花の  
色は緑がかった茶色で4月から5月にかけて開  
花する。



英名；Hornbeam

学名；*Carpinus betulus*

キーワード；月曜日の朝のような憂うつな気分

## ホーンビームを必要とする人

疲労感、こころがくたびれてしまった感じで、朝起きて一日の仕事をこなせないと感じてしまう。問題に向き合うことができないと感じていたり、実際はすべてをこなしているのに今日一日のやることをこなせないと感じてしまう。

ホーンビームは働きすぎの人、毎日の生活にうんざり、または活気がない時に用いることができる。例えば試験勉強に追われているときなど（オリーブも参照）

熱意に欠けるので何事も先延ばしにしてしまう。寝てもすっきりすることがなく、病気の回復期にある場合は、回復する強さなどないと疑いを持つてしまう。

## ホーンビームを取ると見られる変化

強い確信と、一日の仕事に立ち向かうことができるようになる。生き生きとして、新鮮さと自発性が取り戻され、人生が楽しいものになる。毎日の仕事に元気に取り組めるようになり頭も冴えていて、仕事と遊びのバランスがとれるようになる。



# インパチエンス

和名；インパチエンス

川の土手や湿地や水分の多い低地に見られ、180cmくらいまでの高さになる。深紅から赤みがかったうす紫色までさまざまな色の花が7月から9月にかけて咲く。

英名；Impatiens

学名；*Impatiens glandulifera*

キーワード；短気、イライラ、過剰な反応



## インパチエンスを必要とする人

短気で、イライラしてしまうことが多い人。待つことができず、今すぐにすべてを終わらせたいとせっかちになる。行動、思考、話し方もすべてが素早い。有能で能率が良い仕事ぶりだが、ゆっくりと仕事をする同僚にイライラするので、一人で仕事をすることを好む。

独立心が強く、時間の無駄を嫌う。相手が話し終わる前に、話を奪って終わらせるということをする。

突然に怒りを爆発させたりするが、すぐに収まるのも特徴的。具合が悪いとき、落ち着きがなくなりイライラする患者などはこのタイプ。ソワソワして落ち着きがないので、急いで何かをすることから怪我や事故にあいやすい。

## インパチエンスを取ると見られる変化

自分に何が必要かはっきりして自然体でいられるようになる。軽率な言動やあわてて行動するといったことが減る。ゆったり落ち着いていられるようになり、ユーモアも楽しむ余裕が出てくる。多少、ゆっくりな人がいても思いやりが持てるようになる。イライラしてしまうような事態でも、落ち着いて、臨機応変に対応できるようになる。



# ラーチ

和名；ヨーロッパカラマツ

丘陵地や森林に見られ、30メートルの高さまでになる上品な外観の木。針状になる葉が芽吹くときに開花する。



英名；Larch

学名；*Latix decidua*

キーワード；自信がない、劣等感、間違った謙虚さ、私にはできないが口癖

## ラーチを必要とする人

自信がない人。自信が欠如して自分は他人より劣っていることを信じてしまっている状態。どうせ失敗するからと試そうともしない。劣等感に悩まされている。心の中で秘かに自分にもできるのではないかと感じているにも関わらず、それを無視して失敗するリスクを冒そうとはしない。

このレメディは試験の前、仕事の面接試験や運転免許試験など自信がないと感じる人誰にでも使うことができる。

## ラーチを取ると見られる変化

ありのままの自分を見ることができるようになり自分に価値があるという感覚を持つことができる。揺るぎない信念を持ち、有能でありながら失敗や成功にこだわることなく自分らしくいられるようになる。自分の可能性と能力を認めて、目標やゴールに向かって努力することができるようになる。自発性を持って、時にはリスクがあってもできないということを言わずに物事に取り組めるようになる。批判的に見る能力を、客観的に見ることに上手く使いこなせるようになる。

# ミムラス

和名；ミゾホオズキ

北米から持ち込まれた植物。

小川や湿地に育ち、高さ 30 cm位になる。

6 月から 8 月にかけて大きくて黄色い花を咲かせる。



英名；Mimulus

学名；*Mimulus guttatus*

キーワード；恐れと不安

## ミムラスを必要とするとき

原因のはっきりした恐怖へ。例えば、病気、死、事故、痛み、暗がり、寒さ、貧困、人、動物、蜘蛛、人前でのスピーチ、友人や仕事を失うこと、歯科治療が怖いなど。恐怖の対象が分かる、〇〇恐怖症のように名前が付けられるもの。これらの恐怖症に悩まされる人は、芸術センスが優れている、何か一つのことには秀でたタイプかもしれないが、恥ずかしがり屋、引っ込み思案であることが多く、集団の中で無口である。また、ミムラスタイプの人、赤面症、どもり、深刻な場面で緊張のあまり笑ってしまうなどの悩みを抱えているかもしれない。

ミムラスは恥ずかしがりで、内気、臆病な子供によく合い、暗がり、犬が怖いといったときに使うと良い。

## ミムラスを取るとみられる変化

静かで落ち着いた性格でありながら試練や困難にユーモアや自信を持って果敢に立ち向かうことができる。自分のために行動できるようになり、感情もコントロールできるようになる。恐怖を感じることなく人生を楽しむことができるようになる。

# マスタード

和名：マスタード

一年生植物、道端や野原に育つ。30cm から60 cmの高さまで生育する。明るい黄色の花は短い穂のような形でやがて細く数珠状の鞘になる、開花は5月から7月にかけて。



英名：Mustard

学名：*Sinapis arvensis*

キーワード：憂鬱な気分が黒い雲のように垂れこめてくる

## マスタードを必要とする時

突然の憂鬱な気持ち、それまでの晴れ渡った青い空のような気分から、急に落ち込んだ気分になる。

憂鬱さに包まれ、深い絶望感によって、周りの世界を遮断してしまいます。自分の人生を生きているはずなのに、なぜか自分が場違いな異邦人のように思えてしまう。

この憂鬱な気分は深刻なもので、暗く冷たい霧、どんよりとした雲が全てを覆い隠したような感じで、普通にあった陽気さを破壊してしまう。

この鬱状態になった人は、自分ではどうすることもできない状態になってしまう。

## マスタードを取ると見られる変化

喜びが戻る。どんな状況にあっても揺れ動く、破壊されることのない内側からの心の安定と平和を保つことができる。

浮き沈みはあっても、精神的に安定、内面に静けさを保ち、元気でいられるようになる。

# オーク

和名：オーク

オークは昔から神聖な木として  
考えられてきた。森林や草原に生育し、  
4月の終わりから5月の初めにかけて開花

英名：Oak

学名：*Quercus robur*

キーワード：疲れ切っているのに頑張る



オークタイプの人、普段は勇敢で、強く、頼りがいがある。そんなオークタイプの人、がレメディを必要とするのは、内側から出てくる強さが弱まってしまい、疲れが出たとき。

オークタイプの人、何があっても突き進み、疲れは無視する。

強い義務感や責任感があり、なんでも役に立つ人で、誠実で信頼できる。

（オーク、櫟の木はテーブル、家具、家材などに使え、古くなった木は動物の住み家になり、余すところなく役に立つ）

オークタイプの人、忍耐強く、ゆったりとして見えることもあるが、仕事が終わるまで決してリラックスすることはない、その代わりに疲れているときでも頑固に頑張りを続ける。

元々持っていた芯の強さが失われた時、うつになる、イライラやその他のストレスからくる症状が出てくる。オークタイプの人、一生懸命に努力して頑張ってきて病気になったことですら、自分の失敗だと捉えてしまうほど責任感の強さがある。

## オークを取るとみられる変化

オークタイプの人、普段は強く、家族や仕事で中心人物であることが多い。半端ない忍耐力と持久力、粘り強さがあり、ストレス下であっても立ち向かっていけるようになる。オークをとることで、そんなエネルギーを再補給でき、自分の体をいたわること、リラックスして休むようにできるようになる。

# オリーブ

和名：オリーブ

地中海原産の常緑樹。春に開花。

小さな白い花が固まって咲く。



英名：OLIVE

学名：*Olea europaea*

キーワード：エネルギーの不足した状態

**オリーブを必要とする場合は**、長期にわたって緊張を強いられた後、例えば、受験勉強、残業が続き超過労働していた、長引く病気療養、介護などで、身体も心も疲れ切ってしまった状態の時。このレメディは病後に回復期に最適である。

貯蓄してあった強さ、エネルギーをすべて使い果たしてしまい、もう限界…と涙をこぼすまでに疲労困憊してしまった時に示唆される。

何をするにも一苦労、という状態で、すぐに疲れてしまい、生きる熱意が不足してしまっている。この状態に陥っているひとは、今まで興味を持って楽しんでいたことでも楽しくなってしまい、喜びが取り去らわれてしまったかのようである。

また、この状態ではとにかく寝ていたいと思う。体が疲れ切っている結果、体の機能も標準以下で、免疫力も弱っているかもしれない。

## オリーブを取ると見られる変化

強さ、活力と生きることへの興味を取り戻される。

オリーブタイプの人が元気になると、疲れることはなく、自分の持つ強さを発揮することができるようになるが、もっと自分の体を大切にして、体の声を聴けるようになる。

たとえ、床に臥すようなことが起きたとしても心の平安を保てるようになる。



# パイン

和名：ヨーロッパアカマツ

30メートルくらいまで育つ。

木の幹が赤みを帯びた茶色、先のほうがオレンジに見える。雌雄同株で、雄花は黄色い花粉でおおわれている。



英名：Pine

学名： *Pinus sylvestris*

キーワード：自責の念、罪悪感

パインを必要とする場合は、常に罪悪感と自責の念に苛まれている人へ。パインタイプの人、他人の間違ひであっても、何か悪いことが起きてもすべて自分が悪いと感じる。

自分には受け取ることに値しない、価値がないと感じている。

この罪悪感と恥の感覚は、実際に過ちをおかしたということとは関係ないもので、むしろ生きる喜びから自らを遠ざけてしまう。

さらに、パインタイプの人、控えめで謝ってばかり、病気になったことすら謝る。そして、病気や痛みを受けて当然のように感じているかもしれない。

## パインを取ることで起こる変化

現実的な責任感を持てるようになり、堅実な判断が下せるようになる。ポジティブなパインの状態は、他人を尊重するように、自分を尊重できるようになる。

自分の欠点を受け入れるけれど、それにこだわらず、純粹に悔い改めることはあっても罪悪感を抱かないようになる。



# レッド チェストナット



**和名：**ベニバナトチノキ

花は濃いローズピンクで

円すい状に花が付く。

5月か6月初めに開花する。

**英名：**Red Chestnut

**学名：***Aesculus carnea*

**キーワード：**他人のことを気にし過ぎる

レッドチェストナットを必要とする人、自己犠牲的で、他人のことばかりを心配、不安でたまらない人へ（特に家族や近しい友人に対して）

大切な人の最悪の事態を恐れており、たとえ小さなことであっても何か深刻な事態が起こるかもしれないと思う。例えば、子供が公園で遊んだら転んで大変なことになるとか、旅行に出かけたら飛行機が落ちるかもしれないなど。

いつも忙しくしていて、他人の問題について心配している。カウンセラー、看護師、など人との世話をする人が陥りやすい状態である。

## レッドチェストナットを取ると見られる変化

思いやりを持って人の世話をするけれど、心配をすることはなくなる。ポジティブなレッドチェストナットの状態は健康的な考え方を周りに広げ、励ましを必要とする人を励まし、緊急事態であっても肉体的にも心理的にも落ち着いていられる。

頼まれたら喜んで人を助けるけれど、人に助けを受け入れるように強要することはない。

# ロックローズ

和名：ハンニチバナ

高原や砂地に育つ。6月から9月にかけて咲く。一度に1輪から2輪しか開花しない。



英名：Rock rose

学名：*Helianthemum nummularium*

キーワード：恐怖

ロックローズを必要とする人は、恐怖の中にある人。

この場合の恐怖は、事故に遭った後、事故に遭いそうになって避けられた、あるいは事故を見てしまった後に沸き起こる恐怖かもしれない。

今まさに恐怖に襲われている時；例えば、自然災害、突然の病気、強盗に遭ったなど、恐怖で動けなくなってしまう、何もできず無力感を覚えている状態に。

似たような恐怖では、悪夢を見た結果の恐怖がある。

ロックローズの恐怖の状態は短時間で、特定の危機的状态と関連している。

## ロックローズを取ると見られる変化

勇気と正気を保てるようになる。

危機的な状態でも落ち着いていることができるようになる。

# ロックウォーター

和名：清水

これは植物ではなく湧水。手つかずの自然の中にあり病人を癒す力があると知られている。

英名：Rock water

学名：Aqua petra

キーワード：頑固、融通が利かない



ロックウォーターを必要とする人は、柔軟性に欠ける人で、とても高い理想を掲げているために、自分はそこに達していないという自己否定として現れる。

自分に厳しく固定観念を持ち内面の欲求を抑圧する。例えば、厳しい食事制限、運動プログラム、仕事の規律、あるいは精神修養に励んでいるかもしれない。

凝り固まった考え方、例えば、宗教、ダイエット、道徳、政治など、特定のアイデア、教義に支配されている。自分に完璧を求めるけれど、他人の人生にその理想を強要することはない。

ロックウォータータイプの人、働き者で誠実で時に働き過ぎてしまうが、決して自分の達成感に浸ることはない。自己犠牲的で自己否定ばかりしており、自分の高い理想に達しないことで自分にがっかりしている。

## ロックウォーターを取ると見られる変化

柔軟な考え方を持って高い理想を掲げることができる。ポジティブなロックウォーターの状態では、必要ならば決めたことを変え、他の考えを受け入れられるようになる。自分の内側のバランスが、外側から押し付けられた行動様式よりパワフルであることを理解でき、人生がうまく流れるようになる。

# スクレランサス

和名：スクレランサス

砂地、砂利地帯に育つ一年草、高さは5ー70センチになる。開花時期は7月から9月にかけてで、茎がからまり地を這うように茂り、緑色の花が房のように固まって咲く。



英名：Scleranthus

学名：Scleranthus annuus

キーワード：不確かさ、優柔不断

スクレランサスを必要とする人は、優柔不断、なかなか決められない人、特に2つのものから1つを選ばなくてはならない時に難しさを感じる場合。

思考にバランスや均衡を欠いていて、会話をしていると話題が次から次へと飛んでしまう。

気分も上がり下がりが激しく、喜びと悲しみ、元気いっぱいとは無気力、楽観と悲観、笑いと涙、など両極端な状態になる。この変わりやすい状態から、信頼できないように見えてしまう。時間の無駄をしていることが多く、決められないことから良い機会を逃してしまうことがある。

## スクレランサスを取ると見られる変化

すべての状況でバランス、均衡を保ちながら、確かさと、決断力がでる。

ポジティブなスクレランサスの状態は、即決できるようになり、必要ならすぐに行動できるようになる。

# スターオブ ベツレヘム

和名：オオアマナ

玉ねぎやニンニクと同じ植物のファミリーに属する（ユリ科）30センチくらいまで育つ。



細い葉の中心には白い線が入り、花の外側は緑色の縞模様、内側は真っ白。4月から5月にかけての晴れた日に開花する。

英名：Star of Bethlehem

学名：Ornithogalum umbellatum

キーワード：ショック、過去の心の傷

スターオブベツレヘムを必要とする人は、身体的にあるいは心理的にショックなことを経験した後に。例えば、事故に遭遇、良くないニュースを見たり聞いたり、思いがけないショックな出来事があった、怖い思いをしたなど。

これらのショックな出来事に合った直後に取りることが望ましいが、何年か経って遅れて影響が出てきた時、何らかの形で体の症状に表れてきたときなどに用いることもできる。

人は喪失感や悲しみを感じないように感情をまひさせ、内側に閉じこもって感じないようにすることがよくある。

母親と子供の両方が体験するショックにも、出産後すぐに取りることが望ましいとされている。

スターオブベツレヘムを取ることで起こる変化はショック（直後であっても、何年か前であっても）からの悪影響を中和してくれる。



# スイート チェストナット

和名：ヨーロッパグリ



森林など湿り気のある大地に育つ。20mくらいまでの高さになる。開花期は一般の栗より遅く、6月から8月にかけて咲く。

英名：Sweet Chestnut

学名： *Castanea Sativa*

キーワード：極度の苦悩、辛さの限界

スイートチェストナットを必要とする人は、精神的に衰弱しきっている（自殺願望はない）心の苦痛に苦しんでいる時、もうこれ以上我慢できない、限界に達してしまった状態。追い詰められた気分で、どうすることもできず、一人取り残されたように感じるかもしれない。

この状態は、死別したのち、困難な状況が続いた後に起こるかもしれない。

スイートチェストナットを取ることで期待できる変化は、絶望感や落ち込みから自由になる、状況は変わらなかったとしても、楽観的に心の平安を持って向き合うことができるようになる。これは、高次の力の導きを信じていることができるようになる、自分の中にある心の支えを見つけ取り戻すことによって起こるかもしれない。



# バーベイン

和名：クマツヅラ

道端の乾いた荒地や日当たりの良い牧草地に見られる。  
うす紫色の小さな花が、7月から9月にかけて咲く。

英名：Vervain

学名： *Vervena officinalis*

キーワード：過度の情熱で押しつけがましい



バーベインを必要とする人は、固定概念やアイデアがあり、それが正しいと信じ切っていて、変えようとしめないタイプである。バーベインタイプの人には、断固としていて、決めたら実行、必ず成し遂げる。必要以上の努力を注ぎ込み、自分の体力の限界であってもやり続ける。いつも、先のことばかり考えており、たくさんのことを同時にこなし、働き過ぎてしまうところがある。

とても意志が強く、大義を掲げている。不正に対して敏感で、原因究明を怠らない。ある考えに熱中して他人にもその考え方に同調させようとする。

いつも頭脳が活動しており、リラックスすることを拒む傾向があるために、睡眠不足を抱えているかもしれない。他の考え方や、教えに対して、イライラした態度、不満足な物言いをしたりする。

バーベインを取ることで期待できる変化は、自分の意見も大切にするが、相手の意見も聞くことができる心のゆとりが出てくる。バーベインタイプの人々がポジティブになると、落ち着いた賢明さが出てきて、忍耐強くなり、リラックスできる。人生や物事に対して、広い視野をもつことができるようになる。

# バイン

和名：ヨーロッパブドウ

15メートルの高さになるツル性の植物で、温暖な気候の国に見られる。小さな緑色の花をつける。開花時期は気候によって異なる。

英名：Vine

学名：Vitis vinifera

キーワード：支配したがる頑固者



バインを必要とする人は、他人をコントロール、支配したがる傾向が強い。

バインタイプの人、とても有能で、天賦の才があり、野心家であるが、その能力を人をコントロール、いじめるなど間違った使い方をしてしまうことがある。自分が他人より優れていることを知っており、他人を見下してしまう。

他人を自分の考え方、やり方に変えさせようということはずらずに、他人の希望、意見を乗り越えて完全な服従を要求、期待してくる。

攻撃的で高慢、権力に冷酷なまでに貪欲で、極端な状態では、厳格で残酷、全く思いやりがない振る舞いをする。

極端な例でいうと、鉄の棒を振りかざすようなとても厳しい親、上司、政治の独裁者、学校のいじめっこで他の子どもをコントロールするような場合がある。

バインを取ることで期待できる変化は、支配することなく決定権をもつことができるようになる。ポジティブなバインの状態は、人の良いところを見てあげられる、コントロールすることなくアドバイスや指導ができる。

賢明で理解のあるリーダー、先生、親になる。持っている才能を他人を助けるために使い、それが使命であることに気が付く。自然に備わった権威が感じられる、愛される権力者になる。

# ウォルナット

和名：ペルシャクルミ

30メートルまで達する木。4月、5月に  
かけて芽吹きと同時に花をつける。

英名：Walnut

学名：Juglus regia



キーワード：変化や外部からの良くない影響から守る

ウォルナットを必要とする人は、人生の転換期にあるとき；歯の生え変わり、思春期、妊娠、離婚、更年期、転職、引っ越し、依存からの脱却、古くからの呪縛や制限から逃れるとき、また、変化による後悔；友だちをなくした、慣れ親しんだ状態を失う、加齢、死別、死に近づいていくときなど。

その変化に対応するのが難しい、あるいは特定の考え、状況、影響に過敏になってしまっている時に。

理想や野心はあり、人生を前向きに生きようとするのだが、挫折、あるいは自分より強い性格をした人の影響を受けて横道にそれてしまったり、あるいは、制限のある状況によってだったり、家族の影響や過去のつながりによってうまくいかなくなってしまう。

一時的に他人の性格や問題からの影響を受けてしまう人；セラピスト、ヒーラー、カウンセラーなど人の感情と向き合う仕事で疲れてしまう人へ。

ウォルナットを取ることで期待できる変化は、流れに乗って前に進むことができる着実に人生の進むべき道に進む、外部の影響から守り自分を保っていられる、負のつながりを断ち切ることができるようになる。

# ウォーター バイオレット

和名：ウォーターバイオレット

水辺で育つ。黄色い中心で、薄い紫の5弁の花びら、5月から6月にかけて咲く。水の上には、長い茎についた花だけが見え、細く繊細な葉は水中にある。



英名：Water violet

学名： *Hottonia palustris*

キーワード：高慢、プライドが高い

ウォーターバイオレットタイプの人、知識が豊富で、物静かで、有能である。

控えめで、人を落ち着かせることができるので、アドバイスを求められるのだが、自分の意見や希望など一切話すことはしない。穏やかで自分の問題は自分で解決、とっつきにくい印象で、優位に立っているように見える。

疲れているとき、あるいは邪魔することがたくさんある時は、巻き込まれることを嫌い、距離を置いたりするため、社交的でない、冷たい人だと思われてしまう。

自分のことを話すのが苦手で、落ち着いたふりをして聞き手に回っているほうが楽と感じている。あまり、自分の人生に干渉されたくない。

ウォーターバイオレットを取ることで期待できる変化は、温かみのある人間関係を築くことができるようになる。自分の知識や経験を喜んで人の助けに使うことができるようになる。持っている才能をカウンセラー、教師など人に貢献する形で使えるようになる。

# ホワイト チェストナット



和名：セイヨウトチノキ

ピンクと黄色の斑点がある白い花を5月から6月にかけて咲かせる。

英名：White chestnut

学名：Aesculus hippocastanum

ホワイトチェストナットは、心配事や不快な考えが頭の中で堂々巡りしてしまってどうにもならない人に役立ちます。良くない出来事や、言い争いなどが頭から離れず、頭の中で考え続けてしまう。

しつこい、良くない考え、頭の中でのダメ出しなど、壊れたCDのように止まって同じ所を行ったり来たり、頭の中が混乱してしまう。集中することができない。夜眠れない。

頭がボーっとしてしまうため、簡単な質問に答えられない。

ホワイトチェストナットを取ることで期待できる変化は、心の平穏。頭がクリアになり、思考がコントロールできるようになる、思考力をポジティブな問題解決に使うことができる。

心配事が、ポジティブな結果になるという信頼に代わる。



# ワイルドオート

和名：野生のカラスムギ

湿った土地や道端で見かける草。花は垂れ下がる鞘の中にある。

英名：Wild oat

学名：*Bromus ramosus*



キーワード：自分の願い進路がはっきりしない

ワイルドオートは、人生の分岐点にある人で、まったくどうしていいかわからない人に役に立ちます。野心家で、才能もたくさんある、しかし方向性が決まらないために能力を無駄にしてしまう。多くの職を転々するが、すぐに飽きてしまい定着することはない、まるで放浪者のようである。同時に、人生の流れに乗っていないので、心が満たされずいつも不満を感じている。

ワイルドオートは、重要な決断を下すとき（就職や転職等々）に役に立ちます。

ワイルドオートを取ることで期待できる変化は、人生でやりたいことの全体像が見え、自分の真の使命に沿った決断ができる。持っている才能を建設的に使うことができるようになる。マルチな才能は、一つの事だけでなくあらゆる場面で生かされ、仕事をあきらめたり飽きてしまうことがなくなる。



# ワイルドローズ

和名：カニナバラ

日当たりの良い場所を好み、木立の外れや、生け垣、医師の多い斜面などに育つ。花の色は白、淡いピンク、濃いピンクがあり、5枚の花弁は、ハートの形をしている。6月から8月にかけて開花する。



英名：Wild rose

学名：Rosa canina

キーワード：あきらめ、無気力

ワイルドローズは、好ましくない状況（病気、マンネリ化した生活、合わない仕事など）を変える、抜け出すことをあきらめてしまった人に役に立ちます。

文句を言うこともなく、元気になることに関心がなく、職を変えようとか、小さなことでも楽しもうとか興味すらなくなっている。状況は満足できないものにもかかわらず、不幸だと感じることなく、状況を変えようという努力もしない。

病気になった場合、医者からの診断を容易く受け入れて、病気と一緒に生きればいいとまで思ってしまう。憂うつ、落ち込んでいるというよりは、あきらめているだけである。

エネルギーや野心に欠けている状態。

ワイルドローズを取ることで期待できる変化は、生活、仕事、人生に興味が湧く。諦めから希望が生まれ、目的意識、健康、交友関係を楽しめるようになる。ポジティブなワイルドローズの状態は、自分の人生や状況に責任があることを受け入れ、変化を起こすことができるようになる。

# ウィロー

和名：柳の木

いろんな種類の Willow がある中で、この種の Willow は冬に枝がオレンジ色になるので見分けがつく。湿気のある低地を好み、5月の初めに花を咲かせる。



英名：Willow

学名： *Salix viellina*

キーワード：自己憐憫と被害者意識

ウィローは、自分は犠牲者であると被害者意識で怒りを感じている人に役に立ちます。

自分は不当に扱われていると感じ怒った態度を取る。常に周りや他人を責める。

気難しくて気分屋なので、とても扱いにくい。

心の中で、他人の幸福や健康を妬む傾向がある。いつも何かにケチを付けたり怒っているのも、それが体にも現れ、いつも体に何かしらの不調があって健康でない。

ウィローを取ることで期待できる変化は、過去の過ちをゆるして忘れることができる。人生を楽しめるようになり、ポジティブな友人や状況を引き寄せられるようになる。人生の被害者ではなくなり、運命をコントロールできるようになる。